

**◎土木の仕事**

日々の暮らしと産業の発展に必要な道路、橋、トンネル、ダム、鉄道などを地形や環境に合わせて、造っていく仕事です。

道路 トンネル ダム

**◎建築の仕事**

私たちが住む家、普段当たり前のよう  
に利用する学校や病院、最先端の建築  
技術を結集した高層ビルなど、建物を  
築いていく仕事です。

家 工場 病院

この他にも、道路の舗装工事など役割ごとに多種多様な仕事があります。

**地域を守り、人々の暮らしを支えています！**

建設業は、「地域の守り手」として、災害が発生した場合は、いち早く災害現場に駆けつけ、人命救助のために障害物の除去や、道路、水道、電気などのライフラインの復旧工事を行います。

豪雨災害や地震の被害を減らすために、強度が高い建設物を造り、私たちの命と暮らしを守っています。

また、新しく造るだけでなく、古くなった建設物を点検し、必要に応じて補修し、長く安全に使えるようにすることも、地域を支える大事な仕事です。



平成30年西日本豪雨災害の復旧工事の様子



建設業の仕事を詳しく紹介



をチェック!! アクセスはこちら



**建設業って、どんな仕事なの？**

建設業の仕事は大きく2つに分けられます。



**ひめ建新聞**

令和3年度第1号

発行：愛媛県・愛媛県建設産業団体連合会  
TEL.089-943-5324

えひめの建設産業の魅力を発信！  
建設業の「ひめ建新聞」とは、いんちも魅力を感じてほしい！

「ひめ建新聞」は、みんなの身近にあるけれどあまり知られていない、地域の安全と安心を支える建設業の魅力や役割について紹介していく新聞です。

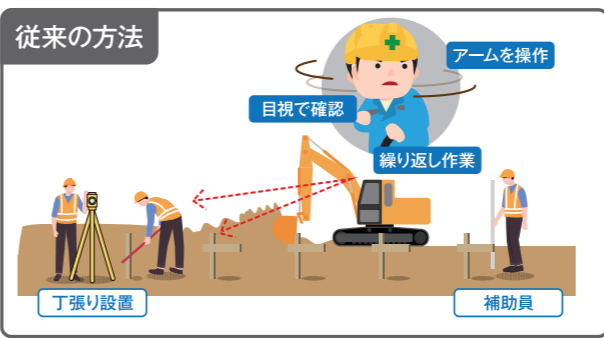
愛媛県イメージアップキャラクター みぎやん

過去のひめ建新聞はこちらをチェック!

# ICT 建設機械が新時代を創る！

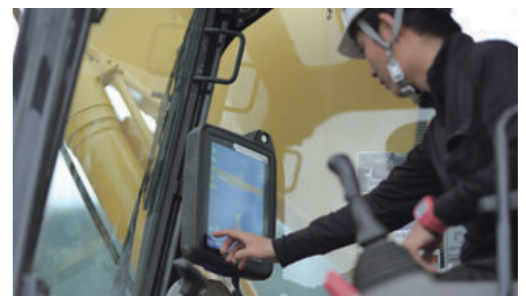
## ICT建設機械の3つのメリット

- 正確性向上**  
経験の浅いオペレーターでも、設計図のとおり正確な工事が可能。
- 生産性向上**  
確認作業が減り、作業時間が短縮できる。少人数でも工事が可能。
- 安全性向上**  
工事の途中で、測量などがないため、安全な工事が可能。



皆さんは、ICT建設機械を知っていますか？ ICTとは、デジタル化された情報の通信技術。この技術を取り入れた建設機械のことをICT建設機械といい、土木工事の分野で活躍するブルドーザーやパワーショベルなどの機種があります。

工事の効率や正確さ、安全性などが大幅に向上するといわれるICT建設機械を導入する企業は年々増加しており、日本の建設業界を救う存在として注目はますます高まっています。



今回は、県内の建設業界でも先駆けてICT建設機械を導入された岡田建設株式会社岡田智哉社長にお話をうかがいました。

**ICT建設機械**  
(パワーショベル)を取り入れたきっかけは？

一番は人手不足ですね。人手を補う方法はないかと考えを巡らせるなかで思いついたのがICT建設機械でした。当社の若い技術者たちのために、最新の技術を取り入れたいという思いもありました。

**ICT建設機械導入のメリットを教えてください**

従来の土木工事では、段階ごとに測量を行い、丁張り(ちようはり)という目印を打つ作業が必要となります。それがICT建設機械なら、機械がGPSを用いて測量を行い正確なデータを出してくれるので、2人がかりで行っていた測量の作業を省くことができます。

ICT建設機械の導入により工事期間が短くなり、燃料代の削減や省力化につながりました。

また、3Dで測量をして、どのくらい掘ればいいのかなどがデータ化されるので高精度の工事が可能で、機械がしっかりナビゲートしてくれるので、経験の浅い人でも活躍できる機会が増えると思います。

## 建設機械の紹介



**【ブルドーザー】**  
トラクターの前面にブレードと呼ばれる部品を装備させたもので、土砂をすくって運ぶ作業に適した建設機械。



**【パワーショベル】**  
先端のバケットで土砂を掘ったり、積み込んだりする建設機械。



**【スパイダー (4輪多関節型作業機械)】**  
先端にタイヤが付いた脚がそれぞれ独立して動き、通常のパワーショベルが入れないデコボコした地形でも安定した姿勢で安全に作業できる。災害復旧現場など様々な場面で活躍できる建設機械。

